



海軍公報 第四八四號

昭和十九年十月一日(日)
海軍大臣官房

○令 達

内令第九七五號ノ二

右本籍ヲ高雄警備府ト定ム

昭和十九年九月十八日

海軍大臣

第二百三十五號驅潛特務艇

内令提
要登載

内令第九七五號ノ三

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年九月十八日

海軍大臣

内令提
要登載

馬公方面特別根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百十六號(高)」ノ次ニ「第二百三十五號(高)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令第一一〇五號

第二百二十八號驅潛特務艇

内令提
要登載

右本籍ヲ高雄警備府ト定ム

昭和十九年九月二十一日

海軍大臣

内令第一一〇六號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年九月二十一日

海軍大臣

内令提
要登載

馬公方面特別根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百二十四號(高)」ノ次ニ「第二百二十八號(高)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

官房教機密第四二〇號

昭和十八年官房教機密第二七三號中左ノ通改正ス

昭和十九年九月二十八日

海軍大臣

内令提
要登載

飛行學生	學生練習生區別	課程別	課程期間	記事
	練習機教程	六月	狀況ニ依リ基礎教程ヲ實施ス	
豫備學生 (飛行)	偵察	實用機教程	五月	四月乃至十月ノ基礎教程ヲ實施スルモノトス
	操縦	練習機教程	六月	
偵察	術科教程	八月		

秘海軍公報 第四八四號 昭和十九年十月一日

一三一九

0051

飛行術練習生		操縦 術專修		練習機教程	六月
偵察 術專修		實用機教程			四月
					八月

(参照) 前記官房教機密二七三號ハ學生練習生ノ教程期間ニ關スル
作ナリ

○ 雜 款

①將旗掲揚
第二十聯合航空隊司令官ハ十月一日將旗ヲ藤澤海軍航空隊ニ掲
揚セリ

○司令艇變更
第二十一驅潛隊司令ハ九月二十日司令艇ヲ第三十八號驅潛艇ニ
變更セリ

○廳舎移轉
高雄海軍軍需部基隆出張所ハ九月十九日左ニ移轉セリ
基隆市日新町一丁目一番地
(電話番號 一四八九)

○事務開始
第百十三號輸送艦裝員事務所ヲ九月十七日大阪市港區南福崎
町大阪造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

驅逐艦風船裝員事務所ヲ九月十八日横須賀海軍工廠内ニ設置シ
事務ヲ開始セリ
第十二號輸送艦裝員事務所ヲ九月二十一日吳海軍工廠内ニ設
置シ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去
第三百三十三設營隊事務所ハ九月二十六日之ヲ撤去セリ

○旅行順路

一 所在地 靜岡縣志太郡靜濱村
二 順路 東海道線藤枝驛下車—乗換—藤相鐵道大洲驛下車
徒歩約十五分(當基地ヘノ旅行者ニシテ燒津驛ニ
テ下車セラル向多數ニ付特ニ注意アリ度)
(關東海軍航空隊)

○本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報 第四八一五號

昭和十九年十月二日(月)

海軍大臣官房

○令 達

官房軍第一一五八號

内令提

當分ノ間廣島縣安藝郡江田島村字大原、山口縣岩國市、舞鶴市、
港及針尾海兵團ニ於ケル海軍兵學校ノ施設ハ之ヲ夫々海軍兵學
校大原分校、海軍兵學校岩國分校、海軍兵學校舞鶴分校及海軍
兵學校針尾分校ト稱スルコトヲ得
海軍兵學校長ハ其ノ監督(副校長ノ監督ニ屬スルモノハ副校長
ノ監督)ノ下ニ各分校ニ於ケル教頭ヲシテ同分校ノ教育ノ實施
ヲ監理センメ又所轄長ニ準ジ同分校ニ配セラレタル職員及生徒
ノ身上ヲ取扱ハシムルコトヲ得
昭和十九年十月一日

海軍大臣

官房軍第一一五九號

當分ノ間海軍兵學校舞鶴分校ニ於テハ従前ノ海軍機關學校ノ教
育綱領ニ準ジ機關、工作及整備專修生徒ノ教育ヲ行フベシ
海軍機關學校ヲ廢止セラレタル際同校ニ在學中ノ生徒及海軍機
關學校生徒トシテ採用豫定ノ者ハ夫々之ヲ海軍兵學校ニ於ケル

(參照) 昭和十八年官房教機密第二八九號海軍兵學校分校ノ呼稱ニ
關スル件ハ自然消滅内令提要卷一三〇ノ六六頁

機關、工作及整備專修ノ生徒及生徒豫定者トス
昭和十九年十月一日

海軍大臣

○牒 通

官房教機密第四二五號

昭和十九年十月一日

海軍省副官

關係各廳長殿

書類發送先ニ關スル件通牒
海軍兵學校舞鶴分校ハ當分ノ間機關、工作及整備專修ノ海軍兵
學校生徒ヲ教育スルコトニ定メラレ候ニ付從來海軍機關學校宛
送付セラレタル書類等ハ海軍兵學校ヘ送付スルノ外別途同校舞
鶴分校宛送付セララル様取計相成度

○雜 款

○酸素ガス容器ニ關スル件照會

左記番號ノ首題容器本年四月北方方面部隊ヨリ當部ニ還納陸揚
中ノ處之方送付先不明ノ爲未ダ發送スルノ運ビニ至ラズ當軍需
部ニ留置キ候モ之方處置ニ關シテハ頗ル難澁致シ居ル次第ニ付

秘海軍公報 第四八一五號 昭和十九年十月二日

一三二一

0053

該容器所有ノ向ハ速ニ通知ヲ得度
追テ通知ナキ場合ハ當部所有ノコトトシ使用致シ度所存ニ付
爲念申添フ

DCW 33033
33294
33410
33342
計四本

(大湊海軍軍需部)

○開廳
台北地方海軍人事部ハ九月一日台北市表町ニ開廳セリ

○開校

一 海軍兵學校大原分校(部内限呼稱)ハ十月一日廣島縣安藝郡江田島村大原ニ開校セリ

二 海軍兵學校ニ對スル書類ハ全テ大原分校宛寫一通送付相成度

三 海軍兵學校教育、監事、附ニ發令セラレタル者ノ本校及分校勤務別ハ本校ニ於テ決定スベキニ付江田島本校ニ着任ノコト

(海軍兵學校)

○廳舎移轉
松江地方海軍人事部ハ九月二十三日松江市殿町一九〇番地ニ移轉セリ

○基地移駐

當隊九月二十一日附靜岡縣志太郡燒津航空基地ニ移駐セリ

(關東海軍航空隊)

○事務所變更

第三百九設營隊ハ九月十八日事務所ヲ橫濱市中區橫濱在勤武官府内ニ變更セリ

○正誤

九月二十二日秘海軍公報第四八〇七號令達欄中「官房經第一五五六號」ハ「官房經第九二〇號」ノ、第十一條ノ二中「イ」ハ「一」ノ、「ロ」ハ「二」ノ、「ハ」ハ「三」ノ、「イ」ニ該當スル者」ハ「前號ニ該當スル者」ノ、九月二十五日秘海軍公報第四八〇八號令達欄海軍戰時特例給與規則第一條ノ四中「文官ハ辭令ノ日ノ翌日」ハ「文官ニ在リテハ俸給、増俸及在勤加俸ハ辭令ノ日ノ翌日」ノ、附則第三項中「昭和十九年九月一日後」ハ「昭和十九年九月一日以後」ノ、第四表ノ四備考第三號中「但シ既ニ」ハ「但シ既ニ前號ノ規定ニ依リ」ノ、同第四號中「特務士官又ハ豫備士官」ハ「特務士官」ノ、「豫備士官若ハ准士官」ハ「豫備士官」ノ、九月二十七日附秘海軍公報令達欄官房經第九一七號末尾海軍機密會計法規類集「二二三頁」ハ「二二五頁」ノ孰モ誤





0055

海軍公報

第四八一六號

昭和十九年十月三日(火)

海軍大臣官房

○令 達

達第三二一號

昭和十九年度ニ於テ建造ニ着手ノ驅潛特務艇五隻ニ左ノ通命名ス

昭和十九年九月三十日

海軍大臣

株式会社山西造船鐵工所ニ於テ建造

第二百四十六號驅潛特務艇

市川造船所ニ於テ建造

第二百四十七號驅潛特務艇

株式會社四國船渠工業所ニ於テ建造

第二百四十八號驅潛特務艇

有限會社福島造船鐵工所ニ於テ建造

第二百四十九號驅潛特務艇

林兼重工業株式會社ニ於テ建造

第二百五十號驅潛特務艇

達第三三一號

軍艦安宅外十七隻艦種變更ニ付左ノ通命名ス

昭和十九年十月一日

秘海軍公報 第四八一六號 昭和十九年十月三日

- 砲艦安宅(舊軍艦安宅)
- 砲艦鳥羽(舊軍艦鳥羽)
- 砲艦磯峨(舊軍艦磯峨)
- 砲艦宇治(舊軍艦宇治)
- 砲艦勢多(舊軍艦勢多)
- 砲艦堅田(舊軍艦堅田)
- 砲艦比良(舊軍艦比良)
- 砲艦保津(舊軍艦保津)
- 砲艦熱海(舊軍艦熱海)
- 砲艦二見(舊軍艦二見)
- 砲艦伏見(舊軍艦伏見)
- 砲艦隅田(舊軍艦隅田)
- 砲艦多多良(舊軍艦多多良)
- 砲艦須磨(舊軍艦須磨)
- 砲艦唐津(舊軍艦唐津)
- 砲艦舞子(舊軍艦舞子)
- 砲艦鳴海(舊軍艦鳴海)
- 砲艦興津(舊軍艦興津)

海軍大臣

一三三三

内令第一二一七號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

横須賀鎮守府在籍

第三十九號海防艦
第五十六號海防艦
令提
載

右警備海防艦ト定メラル

昭和十九年九月二十七日

海軍大臣

内令第一二一八號

特設船舶警戒部處務規程中左ノ通改正ス

昭和十九年九月二十八日

海軍大臣

内令提
要登載

第六條表中

高雄	船舶警戒部高雄支部	フ
高灘	船舶警戒部高灘支部	
昭南	船舶警戒部昭南支部	ニ改ム
スラバヤ	船舶警戒部スラバヤ支部	

(内令提要卷一、三八ノ七二ノ四頁参照)

内令第一二二〇號

特務艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十九年九月三十日

海軍大臣

内令提
要登載

特務艇、驅潜特務艇第一號型ノ項中「第二百四十五號」ノ下ニ「第二百四十六號、第二百四十七號、第二百四十八號、第二百四十九號、第二百五十號」ヲ加フ

(内令提要卷三、四三頁参照)

内令第一二二一號

驅逐隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年九月三十日

海軍大臣

内令提
要登載

第四十三驅逐隊ノ項中「桃」ノ下ニ「楨」ヲ加フ

(内令提要卷一、六八頁参照)

内令第一二二二號

潛水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年九月三十日

海軍大臣

内令提
要登載

第十五潛水隊ノ項中「伊號第四十五」ノ下ニ「伊號第四十六」ヲ加フ

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第一二二三號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

驅逐艦

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

驅逐艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

驅逐艦

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル

呂號第五十五潛水艦

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

第百三十四號海防艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

第五十四號海防艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

吳鎮守府在籍
第百三十四號海防艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

佐世保鎮守府在籍
第五十四號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

第百十二號輸送艦

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

第百六十號輸送艦

昭和十九年九月三十日

海軍大臣

内令提
受登載

内令第一二二四號

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム

第百五號驅潛特務艇

昭和十九年九月三十日

海軍大臣

内令提
受登載

内令第一二二五號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

海軍大臣

佐世保防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第百一號(佐)」ノ次ニ
「第百五號(佐)」ヲ加フ
(内令提要卷三、四八ノ二九頁參照)

内令第一二二六號

右本籍ヲ大阪警備府ト假定ス
第百四十六號驅潛特務艇
自第百四十七號驅潛特務艇
至第百五十五號驅潛特務艇

右本籍ヲ鎮海警備府ト假定ス

昭和十九年九月三十日

海軍大臣

内令第一二二七號

海軍航空廠ヲ置ク地及同廠ニ置ク各部又ハ工員養成所ノ件申左

戦海軍公報 第四八一六號 昭和十九年十月三日

一三二五

ノ通改正セラル

昭和十九年十月一日

海軍大臣

「大湊要港 第四十一海軍航空廠」ヲ「北海道千歳郡 第四十一海軍航空廠」ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ二三頁参照)

内令第一二二八號

昭和十六年内令第一二二三號海軍航空廠支廠ヲ置處地廢止ノ件ノ通改正ス

昭和十九年十月一日

海軍大臣

北海道千歳郡 第四十一海軍航空廠千歳支廠

ヲ

大湊要港 第四十一海軍航空廠大湊支廠

ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ二三頁参照)

内令第一二二九號

昭和十六年内令第一二二三號海軍航空廠ノ分工場ヲ置ク地、呼稱及分掌事項ノ件ノ通改正ス

昭和十九年十月一日

海軍大臣

「第四十一海軍航空廠千歳支廠美幌分工場」ヲ「第四十一海軍航空廠美幌分工場」ニ改ム

航空廠美幌分工場」ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ二四頁参照)

官房人機密第一八〇五號、

本年十月一日現在左記上欄各部ノ職員タル者ハ特ニ發令セラルルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ各下欄ノ相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和十九年十月一日

海軍大臣

記

海軍機關、學校	海軍兵學校(舞鶴分校)
福岡海軍航空隊小富士分遣隊	小富士海軍航空隊
軍艦タル砲艦	砲艦

○通牒

經豫機密第三號ノ六六

昭和十九年十月一日

海軍省經理局長

關係各支出官、資金前渡官更殿

日本銀行代理店設置ノ件通知

國庫事務ヲ取扱フ日本銀行代理店ヲ左記ニ設置シ夫々之ガ事務ヲ取扱フコトト相成候

記

中華民國 河南省「許昌」、「洛陽」

同 湖南省「長沙」

同 安徽省「蕪湖」

スマトラ島 「ラハト」

航本機密第一二一九九號

昭和十九年十月二日

海軍航空本部總務部長

關係各廳長殿

「ハミルトン」式「プロペラ」翼々筒嵌入口

設計變更品ニ關スル件照會

今般首題「プロペラ」翼々筒嵌入口ハ工數節減ノ爲新製品ヨリ

計畫變更セラレ候處本翼體ハ舊品ヨリ約三六六瓦重量増加シ居

リ重量的ニ舊品ト互換性無之候條了知相成度

追テ新舊品ノ區分明示方法トシテ新品ニ對シテハ翼根部A端

面最初ノ刻印個所ヨリ左方一五耗ノ位置ニW刻印ヲ打刻スル

コトニ定メラレ候

○雜 款

○試驗問題發送

第三期海軍下士官候補者銓衡試驗(本年十一月一日施行豫定)

問題ハ十月一日附各艦隊、領守府、警備府、練習聯合航空總隊

及海上護衛總司令部宛發送ヲ了セリ

(海軍省教育局)

○運輸部出張所設置

當部出張所ヲ左ノ通設置シ八月二十五日ヨリ事務ヲ開始セリ

横須賀海軍運輸部館山出張所

千葉縣館山市 館山海軍航空隊内

電話番號(館空交換 九九番(所長) 九五番)

(横須賀海軍運輸部)

○事務開始

第六十七號海防艦艇裝員事務所ヲ九月十六日舞鶴海軍工廠内ニ

設置シ事務ヲ開始セリ

第六十四號、第六十六號海防艦艇裝員事務所ヲ九月十七日長崎

市飽ノ浦町長崎海軍監督官事務所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第一百十三號輸送艦艇裝員事務所ヲ九月十七日大阪市港區南福崎

町大阪造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第一百六十一號輸送艦艇裝員事務所ヲ九月十九日尾道市外日立造

船株式會社向島造船所ニ設置シ事務ヲ開始セリ

桑原部隊(横須賀海軍施設部教導營班)ハ九月二十日横濱市

戸塚區中田町ニ移轉シ事務ヲ開始セリ

順路 省線戸塚驛下車陸路(乗合自動車長後行バス分枝前下

車)約三・二杆

0059

(横須賀海軍施設部教導班)

第六十三號海防艦艇裝員事務所ヲ九月二十三日三菱重工業株式會社神戸造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去

第百五十九號輸送艦艇裝員事務所ハ九月十六日之ヲ撤去セリ
 第五十一號海防艦艇裝員事務所ハ九月二十一日之ヲ撤去セリ
 第十號輸送艦艇裝員事務所ハ九月二十五日之ヲ撤去セリ

明治航空基地(假稱)設立準備事務所ハ九月二十七日之ヲ撤去セリ

○事務所一時撤去
 第四十八號海防艦艇裝員事務所ハ九月二十日ヨリ一時之ヲ撤去シ事務ヲ中止セリ

○殘務整理

第五二四海軍航空隊ハ七月十日解除殘務整理ハ静岡縣志太郡靜濱村燒津航空基地ニ於テ之ヲ行フ
 第百二十一防空隊解除ニ伴フ殘務整理ハ第五十三警備隊松輪派遣隊ニ於テ之ヲ行フ

○電話閉通

青森縣下北郡大湊郵便局 第二〇一番 (大湊海軍人事部)

合同海軍葬儀行

期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場所	記事
十月六日 〇九三〇	故海軍技師宮崎重雄外諸勇士	松江地方海軍人事部長	松江市公會堂	佛式
十月七日 一〇三〇	故海軍少將森野草六郎外諸勇士	横須賀海軍人事部長	横須賀海兵團	同
十月十一日 一〇〇〇	故海軍少將前島壽英外諸勇士	大阪地方海軍人事部長	大阪驛前海軍會館	同

0060

秘

海軍公報 第四八一七號

昭和十九年十月四日(水)
海軍大臣官房

○令 達

達第三三三號

艦需品定額表中左ノ通改正ス

昭和十九年十月三日

主計長主管

海軍大臣

區別	類別番號	供給區分	品名	數稱	摘要	記事
削除消耗品	二三〇	略	歴	枚		

内令第一一九號

特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年九月二十九日

内令提
要登載

海軍大臣

第一監視艇隊ノ項中「第三八千代丸」ノ下ニ「海王丸、みゆき丸」ヲ加フ

第二監視艇隊ノ項中「第三寶松丸」ノ下ニ「精良丸、海和丸」ヲ加フ

第三監視艇隊ノ項中「制海丸」ノ下ニ「進政丸、第三大和丸、第二十七長榮丸、第二號旭丸、新南丸」ヲ加フ

第四監視艇隊ノ項中「第二十七長榮丸、海王丸、海和丸、精良丸、進政丸、みゆき丸、第三大和丸、第二號旭丸、新南丸」ヲ削ル

秘海軍公報 第四八一七號 昭和十九年十月四日

丸、進政丸、みゆき丸、第三大和丸、第二號旭丸、新南丸、」ヲ削ル
(内令提要卷一、一五三頁参照)

内令第一一三〇號
艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス
昭和十九年十月一日

海軍大臣

内令提
要登載

軍艦ノ部中砲艦ノ項ヲ削リ潜水艦ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

砲艦		潜水艦	
伏見型	伏見、開田	安宅、鳥羽、嵯峨、宇治	
熱海型	熱海、二見	勢多、堅田、比良、保津	
多摩型	勢多、須田、比良、保津		
伏見型	伏見、開田		
興津	多摩良、須磨、唐津、舞子、鳴海		

同表備考中第三號ヲ左ノ如ク改メ第四號ヲ第三號トス

四、砲艦、海防艦、輸送艦ヲ稱呼スルニハ「砲艦何」「海防艦何」「第何號海防艦」「第何號輸送艦」ヲ以テス

第五號中「掃海艇」ノ上ニ「水雷艇」ヲ「第何號掃海艇」ノ上ニ「水雷艇何」ヲ加フ

(内令提要卷三、三三三頁参照)

一三二九

0061

内令第一一三二號
昭和九年内令第四百十六號別冊艦艇、特務艦艇機關使用限度標準表中別表ノ通改正ス
別表ハ海軍省軍務局長ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付シ
昭和十九年十月一日

海軍大臣

要登載

内令第一一三三號(軍機秘公報(乙配付)ニ掲載)

内令第一一三四號

横須賀鎮守府在籍

軍艦 伏

軍艦 隅

軍艦 宇

佐世保鎮守府在籍

軍艦 安

軍艦 鳥

軍艦 嵯

軍艦 勢

軍艦 堅

軍艦 比

軍艦 保

軍艦 熱

軍艦 津

内令第一一三五號
要登載

右帝國軍艦籍ヨリ除カル

昭和十九年十月一日

海軍大臣

内令第一一三五號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

砲艦 伏

砲艦 隅

砲艦 宇

砲艦 安

砲艦 鳥

砲艦 嵯

砲艦 勢

砲艦 堅

砲艦 比

砲艦 保

砲艦 熱

砲艦 津

内令第一一三五號
要見

0062

<p>右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル 昭和十九年十月一日</p> <p>砲艦 多良 須磨 唐津 舞子 鳴海 興津</p> <p>海軍大臣</p>	<p>内令第一一三六號 佐世保鎮守府豫備掃海艇 第四十一號掃海艇 昭和十九年十月一日</p> <p>海軍大臣</p>	<p>内令第一一三七號 掃海隊編制中左ノ通改定セラル 昭和十九年十月一日</p> <p>海軍大臣</p> <p>第二十一掃海隊ノ項中「第三十九號」ノ下ニ「第四十一號」ヲ加フ</p> <p>(内令提要卷三、七三頁参照)</p>				
<p>内令第一一三八號 驅潛隊編制中左ノ通改定セラル 昭和十九年十月一日</p> <p>海軍大臣</p> <p>第十一驅潛隊ノ項中「第九號」ノ下ニ「第三十四號、第三十五號」ヲ加フ</p> <p>(内令提要卷一、七四頁参照)</p>	<p>内令第一一三九號 特設驅潛隊編制中左ノ通定メラル 昭和十九年十月一日</p> <p>海軍大臣</p> <table border="1" data-bbox="646 1086 933 1702"> <thead> <tr> <th>隊名</th> <th>特設驅潛艇名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一百十二驅潛隊</td> <td>第八日東丸、第九日東丸、高津丸、第二高津丸、牟丸</td> </tr> </tbody> </table>	隊名	特設驅潛艇名	第一百十二驅潛隊	第八日東丸、第九日東丸、高津丸、第二高津丸、牟丸	<p>内令第一一四〇號 特設掃海隊編制中左ノ通改定セラル 昭和十九年十月一日</p> <p>海軍大臣</p> <p>第三十二掃海隊ノ項ヲ削ル</p> <p>(内令提要卷一、一五〇頁参照)</p>
隊名	特設驅潛艇名					
第一百十二驅潛隊	第八日東丸、第九日東丸、高津丸、第二高津丸、牟丸					

秘海軍公報 第四八一七號 昭和十九年十月四日

一三三一

0063

官房艦機密第六〇七四號

大東亞戰爭中海軍軍需部長消耗兵器(火藥、火工兵器、化學兵器及海軍艦政本部長ヲシテ特ニ通牒セシムルモノヲ除ク)ノ定數外供給請求ヲ受ケタルトキハ當分ノ間軍需部整理消耗兵器ニ準シ處理スルコトヲ得、

昭和十九年十月二日

海軍大臣

官房艦機密第三七〇號

大東亞戰爭中艦營需品經理規程第二十六條ノ規定ニ依ル消耗品拂出簿ハ之ヲ設備ヲ省略スルコトヲ得

昭和十九年十月四日

海軍大臣

〇通牒

經豫機密第三號ノ六九

昭和十九年十月三日

海軍省經理局長

關係各支出官、資金前渡官吏殿

軍用手票ノ取扱ニ關スル件通知

軍人軍屬ニ對スル軍用手票ト日本通貨トノ引換事務ヲ左記ニ於テ取扱フコトト相成候

追テ南發券、儲備券ト日本通貨トノ引換ヲモ取扱フニ付爲念

記

日本銀行那覇代理店

〇雜款

〇事務開始

第一航空戰隊司令部ハ十月一日開隊松山航空基地ニ於テ事務ヲ開始セリ

〇殘務整理

第三航空戰隊司令部殘務整理ハ第一航空戰隊司令部ニ於テ之ヲ行フ

第八五一海軍航空隊ハ九月二十日附解隊殘務整理ハ當分ノ間第一〇二航空基地隊内ニ於テ之ヲ行フ

〇本日軍極秘海軍公報第一九號(乙配付)發行セリ

配付先
各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、航空技術廠、同支廠

海軍公報 號外

昭和十九年十月四日(水)
海軍大臣官房

○ 叙 勳

○昭和十九年九月十一日發令

假勳三六三三	海軍大佐	田中 正雄
同 三六三三	海軍中佐	溝口 權七
同 三六三三	同	矢部 幸
同 三六三三	同	菅原 六郎
同 三六三三	同	小川五郎太
同 三六三三	同	尾田 光雄
同 三六三三	海軍軍醫大佐	早川美智雄
同 三六三三	海軍軍醫中佐	岡田 領夫
同 三六三三	海軍主計中佐	松浦 茂路
同 三六三三	同	阿南 義雄
假勳三六三三	海軍軍醫少佐	美濃部浩一
同 三六三三	同	東間 重倫
同 三六三三	同	小野塚 一郎
假勳三六三三	海軍技術少佐	岡平 健次
同 三六三三	同	小森 寅一
同 三六三三	同	久保 芳雄
同 三六三三	同	玄元 眞清
同 三六三三	同	有田 一夫
同 三六三三	同	廣田 京作

○昭和十八年十二月二十日發令

假勳三六三三	同	木本 忠義
同 三六三三	同	千代田政二
同 三六三三	同	蜂屋 保
同 三六三三	同	高野 俊夫
同 三六三三	同	木村 信雄
同 三六三三	同	佐藤 光造
同 三六三三	同	岡田 勝次
同 三六三三	同	南瀨 達
同 三六三三	同	米谷 省一
同 三六三三	同	藪 肇
假勳三六三三	海軍理事官	石間健之助
同 三六三三	同	大貫 春松
同 三六三三	海軍技師	横田壽一郎
同 三六三三	同	坂田 中
同 三六三三	同	栗元 末次
同 三六三三	同	佐伯 茂
同 三六三三	海軍教授	河川 幹雄
同 三六三三	海軍書記	間賀田俊二
同 三六三三	海軍技師	井上 健
同 三六三三	海軍大尉	關根 修
同 三六三三	同	村上 功

○昭和十九年二月十六日發令

假勳三六三三	海軍大尉	萩原 一男
同 三六三三	海軍軍醫大尉	武田貞三郎
同 三六三三	同	村上榮一郎
假勳三六三三	海軍中佐	前川 萬衛
同 三六三三	海軍技師	土井 茂
假勳三六三三	海軍中佐	小栗卯一郎
同 三六三三	海軍技師	小林 源藏
假勳三六三三	海軍大尉	上田 勝夫
同 三六三三	海軍大尉	内崎 彌

秘海軍公報 號外

秘

海軍公報 第四八一八號

昭和十九年十月五日(木)
海軍大臣官房

命令 達

達第三三五號

自動車操縦術技術檢定合格證交付規則左ノ通定ム

昭和十九年十月三日

海軍大臣

自動車操縦術技術檢定合格證交付規則

第一條 本則ハ海軍軍人及軍屬ノ自動車操縦術技術檢定合格證(以下單ニ合格證ト稱ス)交付ニ關スルコトヲ規定ス

第二條 本則ニ於テ普通自動車、特殊自動車又ハ小型自動車ト稱スルハ内務省令自動車取締令第二條ニ掲グルモノヲ謂フ

第三條 合格證ハ普通自動車操縦術技術檢定合格證及特殊自動車操縦術技術檢定合格證ノ二種トス

普通自動車操縦術技術檢定ハ普通自動車(小型自動車ヲ含ム)ノ操縦ニ任ズベキ者ニ、又特殊自動車操縦術技術檢定ハ特殊自動車ノ操縦ニ任ズベキ者ニ對シ之ヲ交付ス

前項ノ合格證ハ別紙様式第一ニ依ルモノトシ其ノ交付區分左ノ如シ

區分	交付區分
普通自動車	普通自動車ノ技術檢定合格シタル者

秘海軍公報 第四八一八號 昭和十九年十月五日

車種	第一種	第二種	第三種	第四種	第五種	第六種	第七種
牽引自動車	牽引自動車	ロードローリーノ類	蒸氣自動車	電氣自動車	ハノマールクノ類	自動車ノ類	其ノ他ノ特殊自動車
各種別技術檢定ニ合格シタル者	牽引裝置ヲ有シ當ニ他ノ車種トシテ引スルモノ	ロードローリー、グレイダ及耕作用自動車類	蒸氣機關ヲ原動機トシ前各種ニ屬セザルモノ	電動機ヲ原動機トシ前各種ニ屬セザルモノ	前二輪ニ依ル換向裝置ヲ有シシテ前各種ニ屬セザルモノ	前一輪ニ依リ換向スル自動車、自轉車、三輪車、側車、附自轉車ノ類ニシテ前各種ニ屬セザルモノ	前各種ニ屬セザルモノ

第四條 合格證ノ交付ヲ受ケントスル者ハ左ノ各號ニ該當スルモノタルコトヲ要ス

- 一 海軍軍人又ハ滿十五歳以上ノ軍屬ニシテ身體強健、品行方正、思想確實ナル者
- 二 身長一五〇厘以上(成ルベク一五五厘以上)、聽力150-200以上ニシテ矯正視力〇・八以上、顔色力異常ナキ者
- 三 自動車運轉員トシテ適當ナル性能ヲ有スル者

第五條 所轄長部下諸員中前條ノ資格ヲ有シ自動車操縦ニ適ス

0066

ト認ムル者アルトキハ別紙様式第二ニ依リ自動車操縦術技倆
檢定受檢者名簿ヲ調製シ所在地ノ鎮守府司令長官(警備府、
艦隊ニ於テハ夫々警備府司令長官、艦隊司令長官以下同ジ)
ニ提出スベシ

第六條 鎮守府司令長官ハ檢定實施ノ爲部下職員ニ適宜檢定委
員長及委員ヲ命ズルモノトス

第七條 檢定委員長ハ海軍工機學校長ノ定ムル自動車操縦技倆
檢定實施標準ニ基キ檢定實施ニ必要ナル細目ヲ定メ鎮守府司
令長官ノ承認ヲ得テ之ヲ實施スベシ

海軍工機學校長ハ毎教育年度初頭前項ノ標準ヲ定メ各委員長
ニ送付スルモノトス

第八條 檢定實施時期ハ鎮守府司令長官之ヲ定ム

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ委員長至當ト認
ムル場合ニ限り檢定ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

一 普通檢定合格證ヲ有シ特殊檢定ヲ受ケントスル者
二 特殊檢定合格證ヲ有シ普通又ハ異種ノ特殊檢定ヲ受ケン
トスル者

第十條 委員長檢定ヲ實施セル場合ニハ合格者ヲ決定シ其ノ成
績ニ意見ヲ附シ鎮守府司令長官ニ提出スルト共ニ下士官及兵

ニ在リテハ在籍鎮守府ノ海軍人事部長及當該所轄長ニ通知ス
ベシ尙檢定實施ニ關スル意見ヲ海軍工機學校長ニ送付スルモ
ノトス

第十一條 委員長ハ合格者ニ對シ第三條第二項ノ規定ニ依ル合

格證ヲ交付スベシ

第十二條 海軍工機學校内火術(自動車)練習生及沼津海軍工
作學校工作術(施設機械)練習生ニ對シテハ前諸條ノ規定ニ
準據シ夫々海軍工機學校長及沼津海軍工作學校長ヲシテ檢定
ヲ實施セシメタル上合格證ヲ交付セシムルヲ例トス

第十三條 所轄長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ本
則ニ依リ交付セラレタル合格證ヲ返納セシムルモノトス

一 疾病又ハ傷疾ニ因リ將來自動車ヲ操縦セシムルニ不適ト
爲リタル者
二 故意若ハ重大ナル過失ニ因リ自動車ニ依リ人ヲ傷害シ又
ハ物件ヲ毀損シタル者

三 引續キ二年以上自動車操縦ニ從事セシ事實ナキ者

四 其ノ他自動車操縦ニ不適ト認ムル者

第十四條 本則ニ依ル合格證ヲ紛失又ハ毀損シタルトキハ速ニ
所轄長ニ届出ツベシ

所轄長前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ事實調査ノ上再交付ノ必
要ヲ認メタルトキハ別紙様式第三ニ依リ前回合格證交付ノ委
員長ニ之ヲ請求スルモノトス

(別紙添)

達第三三六號

自動車操縦術技倆證明書交付規則中左ノ通改正ス

昭和十九年十月三日

海軍大臣

0067

第四條第一號中「滿十八年以上」ヲ「滿十五年以上」ニ改ム
 第五條乃至第七條中「要港部司令官」ヲ「警備府司令長官」ニ改ム

第九條中「要港部」ヲ「警備府」ニ改ム

第八條中「要港部司令官」ヲ「警備府司令長官」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

掌内火兵（自動車班專修）及掌工兵（施設機械專修）ニ對シテハ前條ニ規定スル試驗ヲ行フコトナク當該證明書ヲ交付スルヲ例トス此ノ場合要スレバ海軍工機學校長又ハ沼津海軍工機學校長ヨリ技術證明書ヲ交付スルコトヲ得

（參照）諸例則卷三、八五〇ノ七頁

内令第一一三一號

對潜水艦戰教範草案別冊ノ通定メ之ヲ試行ス

内令提
要登載

別冊ハ海軍文庫ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシム

昭和十九年十月一日

海軍大臣

内令第一一四二號

昭和十八年内令第二五六六號別表中左ノ通改正ス

内令提
要登載

昭和十九年十月一日

海軍大臣

紀伊防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第八日東丸（吳）、第九日東丸（吳）」及「軍丸（吳）、高津丸（吳）」第二高津丸（吳）ニヲ削リ特

設掃海艇ノ欄ニ「第二鮮友丸（吳）、第三鮮友丸（吳）、第三高島丸（吳）、第三江口丸（吳）、櫛丸（吳）、阿津丸（吳）」ヲ加フ
 第三南遣艦隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「宮古丸（舞）、若竹丸（舞）」ヲ削ル
 第十二特別根據地隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第根 地	五十 種	宮古丸（舞） 若竹丸（舞）
別隊		

（内令提要卷三、四八ノ二九頁參照）

官房經第九三五號

昭和十五年官房第五三二三號中左ノ通改正ス

昭和十九年十月三日

海軍大臣

第一項第一號（一）及（二）中「在勤加俸」ノ下ニ「及臨時家族手當」ヲ加フ

別表ヲ別表ノ如ク改ム

附則

本令ハ昭和十九年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

（別表添）

（參照）海軍會計法規類集二卷、八〇八ノ二七ノ五頁

官房教第七九號

學術獎勵賞授與特例ニ關シ左ノ定ム

昭和十九年十月四日

海軍大臣

學術獎勵賞授與内規別表記載職名以外ニ於テ各種練習生(下士官候補者ニシテ特技章ヲ付與セラルモノヲ含ム)ヲ養成スル場合其ノ卒業成績優等者ニハ學術獎勵賞授與内規ヲ準用シ賞狀ヲ授與ス

前項ノ賞狀ハ其ノ教育ヲ掌ル所轄長之ヲ授與スルモノトス

(參照) 諸例則卷三、八七八頁ノ五及八七八頁ノ一三

○ 通 牒

官房軍第一一六三號

昭和十九年十月三日

海軍次官

關係各廳長殿

自動車操縱術技術證明書交付規則改正ニ關スル件申進

今般達第三三六號首題規則ノ一部改正ニ於テ掌内火兵(自動車班專修)及掌工兵(施設機械專修)ハ自動車操縱ニ關シ十分ナル技術ヲ有スルモノト認メラレ同規則第七條ニ規定スル試験ヲ行フコトナク技術證明書ヲ交付スルヲ例トスルコトニ定メラレ候處右主旨ニ鑑ミ此等特修兵ノ教育指導並ニ配置ニ關シテハ今

後一層留意シ之ガ自動車操縱技術ノ維持向上ヲ期シ得ル様可然取計相成度

海人三第二號ノ二〇五

昭和十九年十月三日

海軍省人事局長

關係各廳長殿

臨時考課表調製ニ關スル件申進

左記ニ依リ飛行豫料練習生出身ノ特務士官ニ對スル臨時考課表ヲ調製シ直接海軍大臣ニ進達ノコトニ定メラレ候

記

調製範圍	進達期限	記 事
海軍中尉ニシテ昭和十八年八月一日以前現官ニ進級シタルモノ	昭和十九年十月三十一日	一、考課表ノ様式ハ士官ニ對スルモノニ依リ 二、考課表進達ノモノニ付テハ大尉ニ進級シタル士官大尉ニ付テハ大尉任官ヲ證明セラル内意ニ付所見欄ニ士官任官ノ適否ニ付忌憚ナキ所見ヲ記載スルモノトス

經給第一八四號

昭和十九年十月四日

海軍省 經理局

關係各 部 御 中

家族移轉料支給上ノ勤務地ニ關スル件通牒

左記各部ニ勤務スル海軍軍人軍屬ニ付テハ各頭書ノ地ヲ家族移

0069

轉料支給上ノ勤務地トシテ認許セラレ候

記

宮城縣女川町 女川防備隊
 埼玉縣大和田町 大和田通信隊
 三重縣鳥羽町 伊勢防備隊
 下關市 下關防備隊
 佐伯市 吳防備戰隊司令部
 長崎縣川棚町 臨時魚雷艇訓練所

○雜款

○飛行術練習生(射撃專修)期別付與ノ件通知
 高雄海軍航空隊ニ於テ卒業ノ第一期乙特出身ノモノニテ第一期飛行術練習生(射撃專修)トアルハ第三十四期飛行術練習生射撃專修ト定メラレ候條左記ニ依リ處理相成度

記

一 履歴表欄中左ノ要領ニ依リ記註相成度

年月日	履歴
一九一六、一二	練習艦隊總隊機密第八〇號ノ六九ニ依リ第三十四期飛行術練習生(射撃專修)教程卒業者トナル

二 履歴表ノ特科及特技章欄ノ「飛行術章(射撃)」トアルヲ「飛行術章(射撃)」ニ、配置又ハ經歷欄ノ「飛行術練習生(特)」トアルヲ「飛行術練習生(射撃)」ニ訂正ヲ得度

三 考課調査表中「飛練(特)」トアルヲ「飛練(射撃)」ニ訂正ヲ得度
 (第二高雄海軍航空隊)

○履歴記註事項ニ關スル件

今般本校ハ横須賀第三警備隊ヲ、分校ハ同武山派遣隊ヲ兼ネシメラレタルニ付本年七月二十日以後本校及分校ノ定員、練習生(講習員ヲ含ム)及新兵タリシモノニシテ現ニ貴所轄勤務員ニ對シ該當者ヲ調査ノ上左ノ通記註相成度

本校員 タリシ者 分枝校員 タリシ者	一六、七、三	兼横須賀第三警備隊附ヲ命ズ 兼横須賀第三警備隊武山派遣隊附ヲ命ズ	工機校 工機校分校
-----------------------------	--------	-------------------------------------	--------------

一 七月二十日以後本校及分校ニ入校セル者ニ對シテハ當校附ヲ命ジタル日ヲ以テ記註相成度

二 自今本校附及分校附又ハ練習生(講習員ヲ含ム)等ニ轉動(入校)ヲ命ズル際ハ同時ニ必ズ「兼横須賀第三警備隊附ヲ命ズ」又ハ兼横須賀第三警備隊武山派遣隊附ヲ命ズ」ト記註相成度

追テ (一) 在籍海軍人事部長ニ對シテハ所定ノ異動通知送付相成度

(二) 練習生及講習員中機關術(掌主機及掌權)及高等科内火術(内火班)ハ本校右以外ハ分校勤務ニ候
 (海軍工機學校)

○事務所撤去

昌號第五十五潜水艦艇裝具事務所ハ九月三十日之ヲ撤去セリ

0070

○旅行順路

北陸線富山驛乘換富山港線大廣田驛下車大廣田驛ヨリ日本海造船所迄徒歩ニテ約五分

富山縣富山市西ノ宮七一日本海造船所内

(第三十七號海防艦裝員事務所)

○本日軍極秘海軍公報第二〇號(乙配付)發行セリ

配付先

各司令官

各警備府、各警備府、各海軍人事部、各地方海

軍人事部

海軍經理部

海軍施設部

海軍需部

警備府軍法會議

大阪

通信隊

在勤海軍武官府

海軍運輸部

海軍刑務所

海軍監督官事務所

在勤海軍武官府

神戸

海軍監督官事務所

大坂海軍運輸部神戸支部

海軍經理部名古屋支部

海軍施設部名古屋支部

横須賀

海軍運輸部名古屋支部

在勤海軍武官府

名古屋

海軍監督官事務所

舞鶴海軍運輸部伏木支部
富山海軍監督官事務所
滿洲國在勤帝國大使館附武官
新京日本海軍武官府
船舶警戒部大阪支部
船舶警戒部神戸支部
第二海軍療品廠

○本日海軍公報發行セズ

0071

(達第三三五號様式第一)

<p>注意 事項</p> <p>一、法規ヲ嚴守シ事故防止ニ對シ細心ノ注意ヲ拂フベシ</p> <p>二、運轉ノ際ハ必ず本合格證ヲ携帯スベシ</p> <p>三、本合格證ハ之ヲ他人ニ讓渡又ハ貸與スベカラズ</p> <p>四、紛失又ハ毀損シタルトキハ速ニ所轄長ニ届出再交付ヲ受クベシ</p>	<p>自動車 操縦術</p> <p>技倆檢定合格證</p>
---	-----------------------------------

(昭和十九年十月五日祕海軍公報)

<p>檢定種別</p> <p>普通 (第 種)</p> <p>特殊 (第 種)</p>	<p>○領第 號</p> <p>年 月 日交付</p> <p>○領守府</p> <p>入籍番號</p> <p>官(職) 氏 名</p> <p>年 月 日生</p> <p>委員 長印</p>
---	--

14 欄 0072

(達第三三五號様式第二)

昭和 年 月 日

(昭和十九年十月五日祕海軍公報)

司令長官殿

普通(特殊)自動車操縦術技術檢定受檢者名簿

所 轄 長 官

身 體	自動車ニ關スル經歷		配 置	入籍番號 (年 月 日入)	官 (職)	氏 生 年 月 日 名	記 事
	入團(備入)前	入團(備入)後					

備考

- 一 特殊檢定ノモノハ記事欄ニ車輛ノ種類ヲ記入ス
- 二 檢定合格證及地方免許證ヲ有スル者ハ記事欄ニ其ノ旨記入ス
- 三 身體欄ニハ身長、視力、識色力及聽力ニ付記註シ軍醫官認印ヲ要ス

0073

(達第三三五號様式第三)

昭和 年 月 日

委員長殿

所 轄 長 閣

(昭和十九年十月五日秘海軍公報)

自動車操縦術技倆検定合格證再交付ノ件請求

合格證 種別	前 回 交 付 日	理 由	配 置	入 籍 番 號 (備入年月日)	官 職	氏 名	生 年 月 日	備考 合格證種別欄ハ普通自動車特殊自動車ノ種別ニ從ヒ「普通」「特殊」ト記入シ特殊ノ場合ニ於テハ更ニ其ノ種別 ヲ併記ス											

0074

(官房経第九三五號別表)

國名	支給額		適用期間
	勅任官	委任官及判任官四級係以上 判任官五級係以下	
亞爾然丁	〇、四〇	〇、四五	同
アンガニスタン	一、〇〇	一、一〇	同
蘇聯	〇、五〇	〇、五五	同
エイレ國	一、〇〇	一、二〇	同
クロアチア	〇、八〇	〇、九〇	同
土耳古	〇、六五	〇、七〇	同
瑞典	一、四〇	一、六〇	同
芬蘭	一、四〇	一、六〇	同
葡萄牙	〇、八〇	〇、九〇	同
勃利	〇、五〇	〇、五五	同
羅馬尼	〇、六五	〇、七〇	同
洪牙利	〇、五〇	〇、五五	同
西班牙	〇、八〇	〇、九〇	同
伊國	二、六〇	三、〇〇	同
瑞西	〇、四五	〇、五〇	同
獨國	〇、四〇	〇、四五	同
佛國	二、二〇	二、五〇	昭和十九年四月以降

(昭和十九年十月五日祕海軍公報)

0075

秘

海軍公報 第四八一九號

昭和十九年十月六日(金)
海軍大臣官房

○令 達

達第三三八號

艦營需品定額表中左ノ通改正ス

昭和十九年十月五日

海軍大臣

主計長主管

區別	類別	番號	供給區分	品名	數稱	摘要	記事
削除備品	四一〇			窓掛丙枚			
改正消耗品	十二二〇			軍用薪把		代用品適宜	摘要改正

達第三三九號

艦營需品經理規程中左ノ通改正ス

昭和十九年十月五日

海軍大臣

別表第一號其ノ二豫算外直買需品名表中主計長主管ノ部中「軍用薪」ヲ「軍用薪代用品」ニ改ム

別表第二號豫算内直買需品名表中機關長主管ノ部中「木炭」ヲ削リ主計長主管ノ部中「軍用薪」ヲ「軍用薪代用品」ニ改ム

同號備考中「木炭」ヲ削ル

秘海軍公報 第四八一九號 昭和十九年十月六日

官房經機密第一五九二號

本年九月二十一日現在ノ工(鐵)員(見習工員及見習鐵員ヲ除ク)ニ付本年十月ニ於テ左記ニ依リ臨時賞與ヲ支給スベシ

昭和十九年十月五日

海軍大臣

記

一 賞與額給料 二十日分以内

二 廳長ハ海軍省經理局長ノ定ムル所ニ依リ各人ニ對シ賞與ノ減額支給ヲ爲スコトヲ得

○通 牒

官房經機密第一六〇〇號

昭和十九年十月五日

海軍次官

各所屬長官殿

豫算運用ニ關スル件申進

戰局ノ要請ニ基テ臨時軍事費豫算ノ必然的膨脹ニ伴ヒ近時動モスレバ部内ニ於テ豫算ノ使用ニツキ慎重ヲ缺ク向アルヤニ見受ケラルル處斯クテハ世上一般ニ於ケル資金輕視ノ風潮トモ關聯シ「悪性」インフレーション」傾向ヲ助長スルノ虞ナシトセズ國

一三三九

0076

家財政資金ノ一大部分ヲ支出スル海軍トシテハ此ノ際自ラ戒メ戰備實行上資材勞務ト資金トノ吻合ヲ期スル共ニ不念不要ノ支出ハ嚴ニ之ヲ抑制スルノ要切ナルモノアリト認メラルルニ付關係各部ニ於テ更ニ資金ノ効率發揮ニ努メ豫算運用上遺憾ナキヲ期スル如ク指導相成度

官房機密第一三四號ノ一五

昭和十九年十月二日

海軍省副官

關係各廳長殿

暗號圖書配給及處分ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ別ニ特令セララルモノヲ除キ別冊暗號圖書現狀表第三七號ニ依リ處理相成度
(別冊ハ所要ノ向ニノミ之ヲ配付ス)

教育機密第三三一號

昭和十九年九月二十六日

内令提
要登載

海軍省教育局長
海軍省人事局長

各鎮守府參謀長
各警備府參謀長
海軍練習聯合航空總隊參謀長

特別志願兵及徵兵(半島及本島出身)ノ新兵
教育等ニ關スル件申進

首題ノ件當分ノ間左記ニ依リ實施ノコトニ定メラレ候

教育實施要領

兵種別	新兵教育		練習生教育		記事
	場所	期間	場所	採用法	
水兵	所屬營	六月	内地ノ關係部	現地ニ依リ採用ス	一、整備兵、衛生兵、工兵ニ對シテハ、海軍省教育課長ノ指示ニ依リ、各營隊ニ於テ教育スルベシ 二、新兵教育ニ關シテハ、海軍省教育課長ノ指示ニ依リ、各營隊ニ於テ教育スルベシ 三、練習生採用ニ關シテハ、海軍省教育課長ノ指示ニ依リ、各營隊ニ於テ採用スルベシ
機關兵	所屬營	六月	海軍經理學校	現地ニ依リ採用ス	
主計兵	所屬營	六月	海軍經理學校	現地ニ依リ採用ス	一、整備兵、衛生兵、工兵ニ對シテハ、海軍省教育課長ノ指示ニ依リ、各營隊ニ於テ教育スルベシ 二、新兵教育ニ關シテハ、海軍省教育課長ノ指示ニ依リ、各營隊ニ於テ教育スルベシ 三、練習生採用ニ關シテハ、海軍省教育課長ノ指示ニ依リ、各營隊ニ於テ採用スルベシ
整備兵	所屬營	六月	海軍經理學校	現地ニ依リ採用ス	
工作兵	所屬營	六月	海軍經理學校	現地ニ依リ採用ス	一、整備兵、衛生兵、工兵ニ對シテハ、海軍省教育課長ノ指示ニ依リ、各營隊ニ於テ教育スルベシ 二、新兵教育ニ關シテハ、海軍省教育課長ノ指示ニ依リ、各營隊ニ於テ教育スルベシ 三、練習生採用ニ關シテハ、海軍省教育課長ノ指示ニ依リ、各營隊ニ於テ採用スルベシ
衛生兵	所屬營	六月	海軍經理學校	現地ニ依リ採用ス	

備考

- (一) 本教育ハ第四期特別志願兵(昭和十九年十一月一日入團)ヨリ之ヲ適用ス
- (二) 第二期及第三期特別志願兵ニ對スル練習生採用ハ新兵教育終了後本要領ニ準ジ之ヲ實施シ第一期特別志願兵ニ對スル練習生採用ハ第二期特別志願兵ト同時ニ之ヲ行フ練習生採用種別

0077

兵種	練習生	種別
水兵	普砲	陸上對空機砲
整備兵	普信	普機雷
機關兵	普飛	整
工作兵	普内	火(自動車)
衛生兵	普看	
主計兵	普普	機經

備考
丙種飛行豫科練習生ノ採用ニ關シテハ別ニ定ム

經給機密第一五三號

昭和十九年十月四日

海軍省經理局長

各關係廳長殿

獎勵加給ニ關スル件通牒

當分ノ間奄美大島以南ノ琉球諸島ニ在ル海軍ノ各部ニ勤務(派遣ヲ含ム)ノ工員ニ對スル獎勵加給ハ昭和十九年經給機密第一二號ノ規定ニ拘ラズ平均五割迄ヲ支給シ得ルコトト了知相成度

經給機密第一五四號

昭和十九年十月五日

海軍省經理局長

秘海軍公報 第四八一九號

昭和十九年十月六日

關係各廳長殿

工員賞與支給ニ關スル件通牒

本年官房經機密第一五九二號ニ依ル首題ノ件ハ昭和十八年經給機密第一一六號ノ規定ニ拘ラズ左記ニ依リ支給スル義ト了知相成度

記

- 一 賞與支給額ハ左ニ依ルモノトス
 - 六月二十日以前採用ノ者 二十日分以内
 - 七月二十日以前採用ノ者 十五日分以内
 - 八月二十日以前採用ノ者 十日分以内
- 二 本賞與期間内ニ於テ刑罰ヲ受ケタル者ニハ本賞與ヲ支給セズ但シ職務上ノ過失ニ因リ八日以内ノ禁足ニ處セラレタル者ニ付テハ其ノ情狀及平素ノ勤務ヲ斟酌シテ前號ニ依ル賞與支給額ヨリ其ノ七割以内ヲ減額シ賞與ヲ支給スルコトヲ得
- 三 本賞與ハ缺勤日數並ニ平素ノ勤務狀況ニ依リ適宜減額スルコトヲ得但シ情狀重キモノニ對シテハ本賞與ヲ支給セズ

經給機密第三號ノ七二

昭和十九年十月五日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

各契約擔任官

昭和十九年度豫算使用ニ關スル件通牒

今般官房經機密第一六〇〇號ヲ以テ海軍次官ヨリ豫算運用ニ關

一三四一

0078

シ各所屬長官宛申進有之候處昭和十九年度豫算ノ實行ハ今日迄ノ令示實績ニ徴スレバ豫想外ニ多額ニ上ル狀況ナルヲ以テ豫算ノ使用ニ關シテハ此ノ際一層慎重ヲ要スルモノト認メラレ候ニ付關係各部充分連絡ノ上概ネ左記ニ依リ豫算ノ節用、資金ノ效率發揮ニツキ更ニ格段ノ配慮相成度

記

一 物品購入費加工費等ノ前金拂概算拂ハ生産力増強上必要ナル限度ニ於テ充分之ヲ活用スルコトトシ苟モ舊來ノ惰性ニ依リ劃一放慢ニ流レ或ハ業者ノ打算的要望ニ追從スルガ如キコトヲ絶無ナラシムルコト

二 軍需手形ニ就テハ海軍各部ニ於テハ一般ニ無關心ナル向多ク今日迄ノ實績期待ノ如クナラザルニ付今後ハ前金拂概算拂ト併用スル如ク一段ノ工夫ヲ加ヘ以テ之ヲ利用擴大ニ努ムルコト

三 例年十二月ニ於テハ前金拂及概算拂ノ支拂高甚シク増嵩ス

ル傾向アリシモ本年度ハ豫算ノ都合モアリ努メテ之ヲ増嵩ヲ抑制スルコト

四 臨時軍費成立豫算ハ昭和二十年一月末迄分ヲ目途トセルモノニ付各部ノ令示要求ハ短期間分ニ區分シ支出官及前渡官更ノ手持額ヲ少カラジムルト共ニ二月一日以降持越額ハ極力之ヲ減縮スルコト(二月以降所要額ニ就テハ次期成立豫算中ヨリ早日ニ令示手續ノコトニ當局ニ於テ考慮ス)

○ 雜 談

○ 正 誤

九月十一日附秘海軍公報(第四七九六號)一二三〇頁下段二一頁目「防空電燈覆」ノ數稱欄中「同」ハ「個」ノ誤、一二三二頁上段二行目「陸戰椅子乙」ノ記事欄中「摘要削除」ハ衍、同一二三二頁上段五行目「玉揚策」ノ記事欄中「大」ハ「甲」同六行目「玉揚策小」ハ「玉揚策乙」ノ誤

合同海軍葬儀執行

期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場 所	記 事
十月二十六日 一〇〇〇	故海軍少佐矢尾嘉一外諸勇士	金澤地方海軍人事部長	東本願寺別院	佛式
十月二十八日 同	故海軍大尉大堀實外諸勇士	新潟地方海軍人事部長	新潟市公會堂	同
十月三十一日 〇九三〇	故海軍大佐大槻俊一外諸勇士	舞鶴海軍人事部長	舞鶴海兵團	同

秘

海軍公報 號外

○懲罰

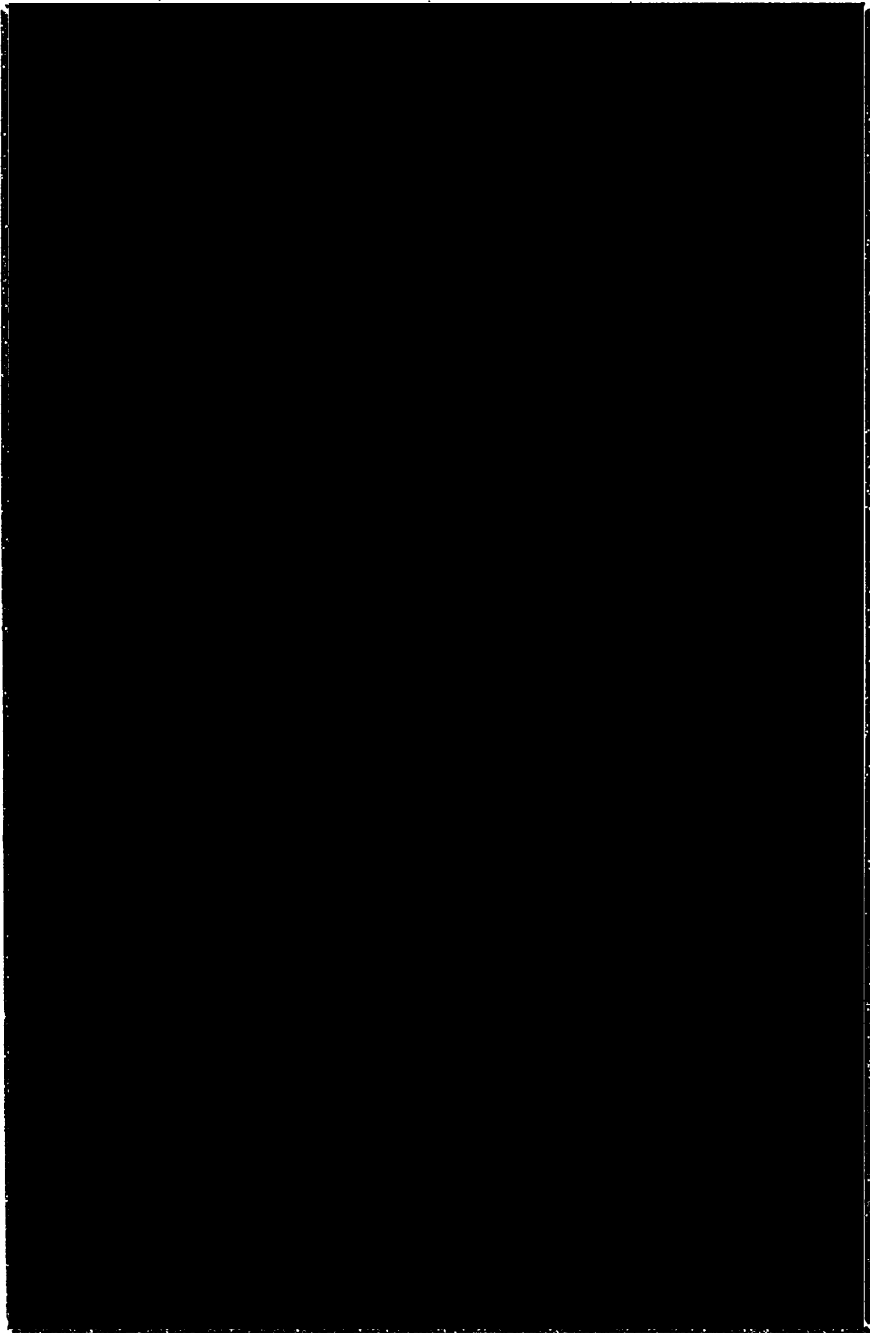
懲罰言渡書

昭和十九年十月六日(金)
海軍大臣官房

秘海軍公報 號外

0080

秘海軍公報 號外



0081

秘海軍公報 號外

三

0082

秘
海
軍
公
報
號
外

四

0083

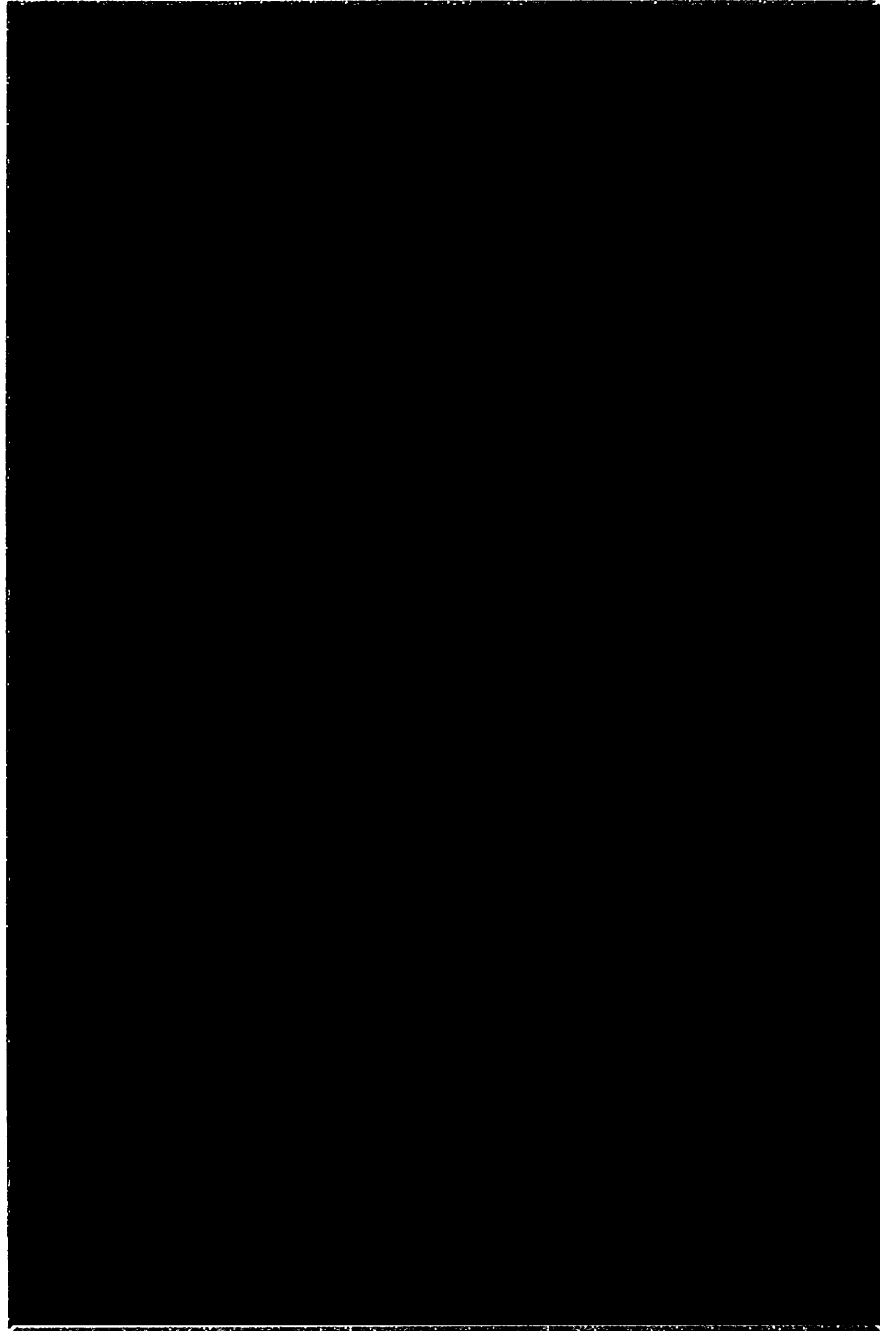
0084

秘
海
軍
公
報
號
外

五

0085

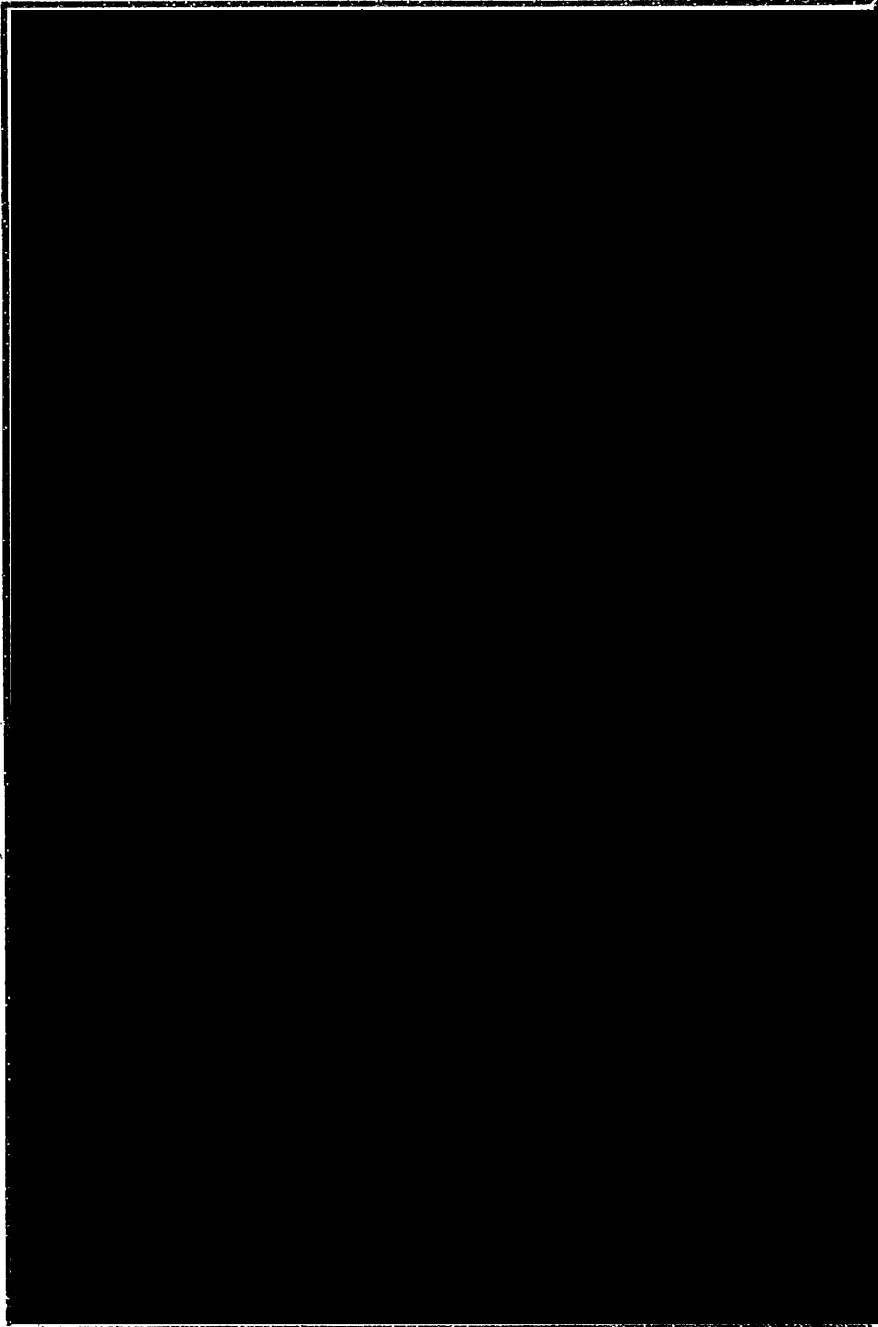
秘
海
軍
公
報
號
外



六

0086

秘
海
軍
公
報
號
外



七

0087

秘
海
軍
公
報
號
外

八

0088

秘
海
軍
公
報
號
外

九

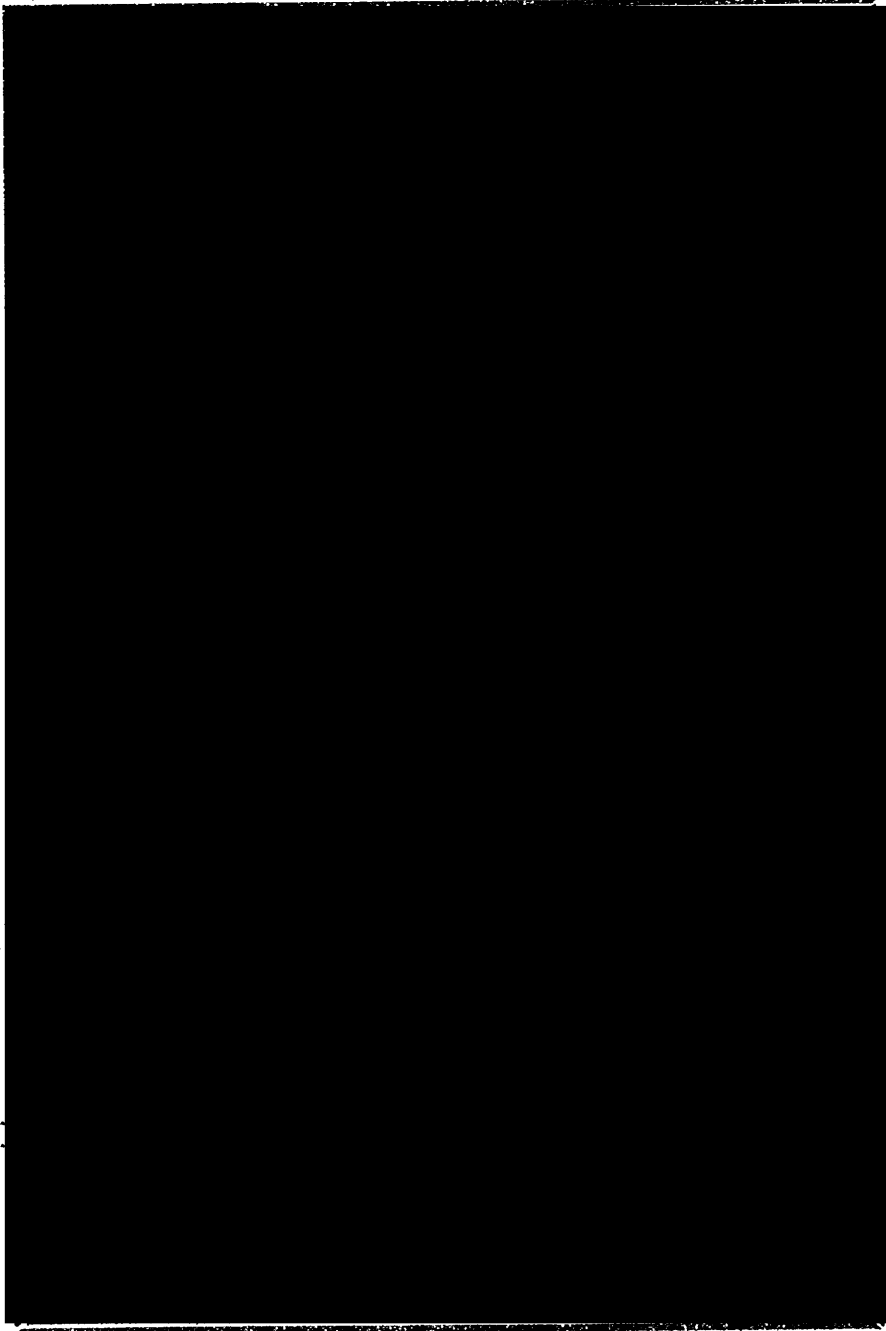
0089

秘
海
軍
公
報
號
外



0090

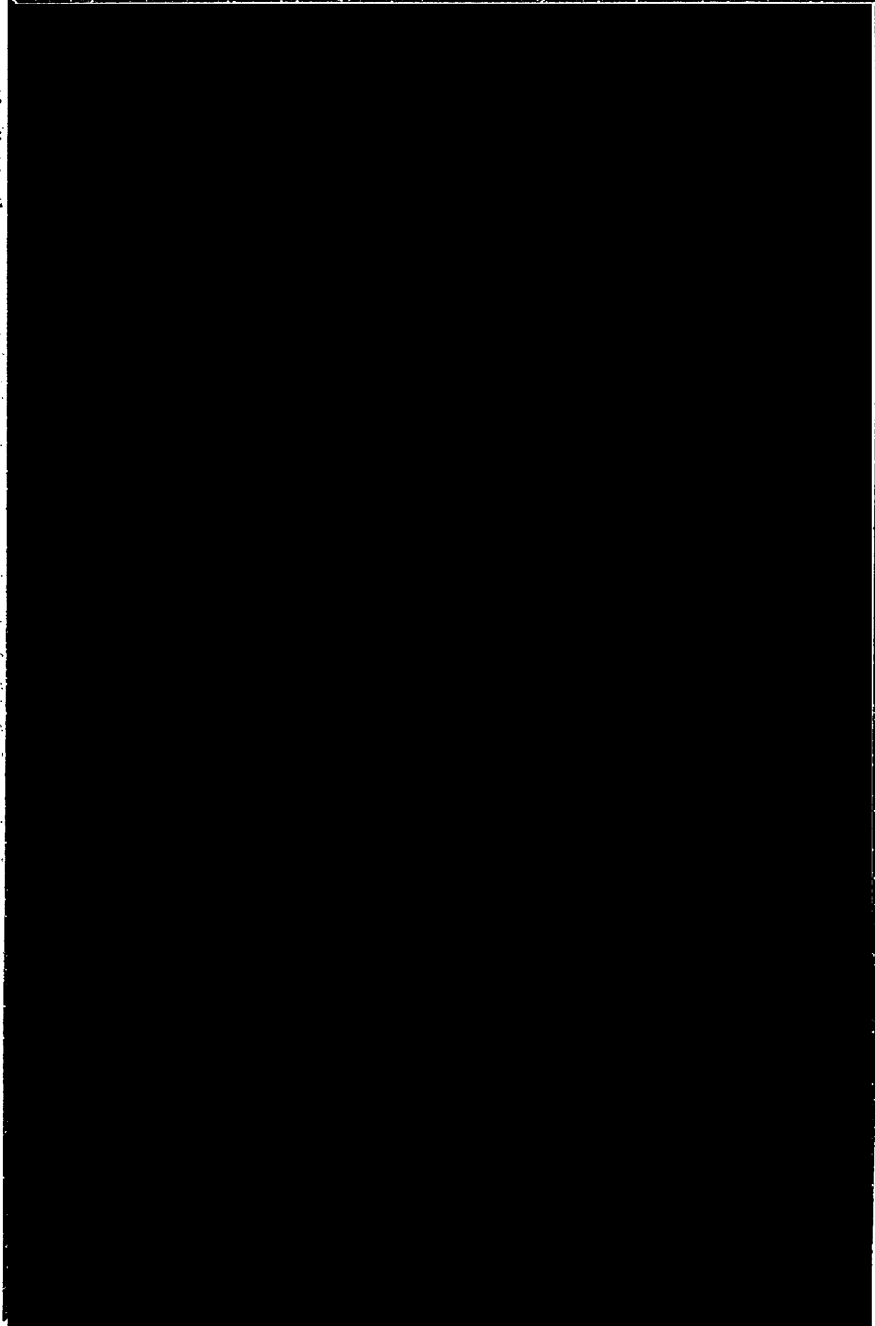
秘
海
軍
公
報
號
外



0091

秘
海
軍
公
報
號
外

秘海軍公報 號外



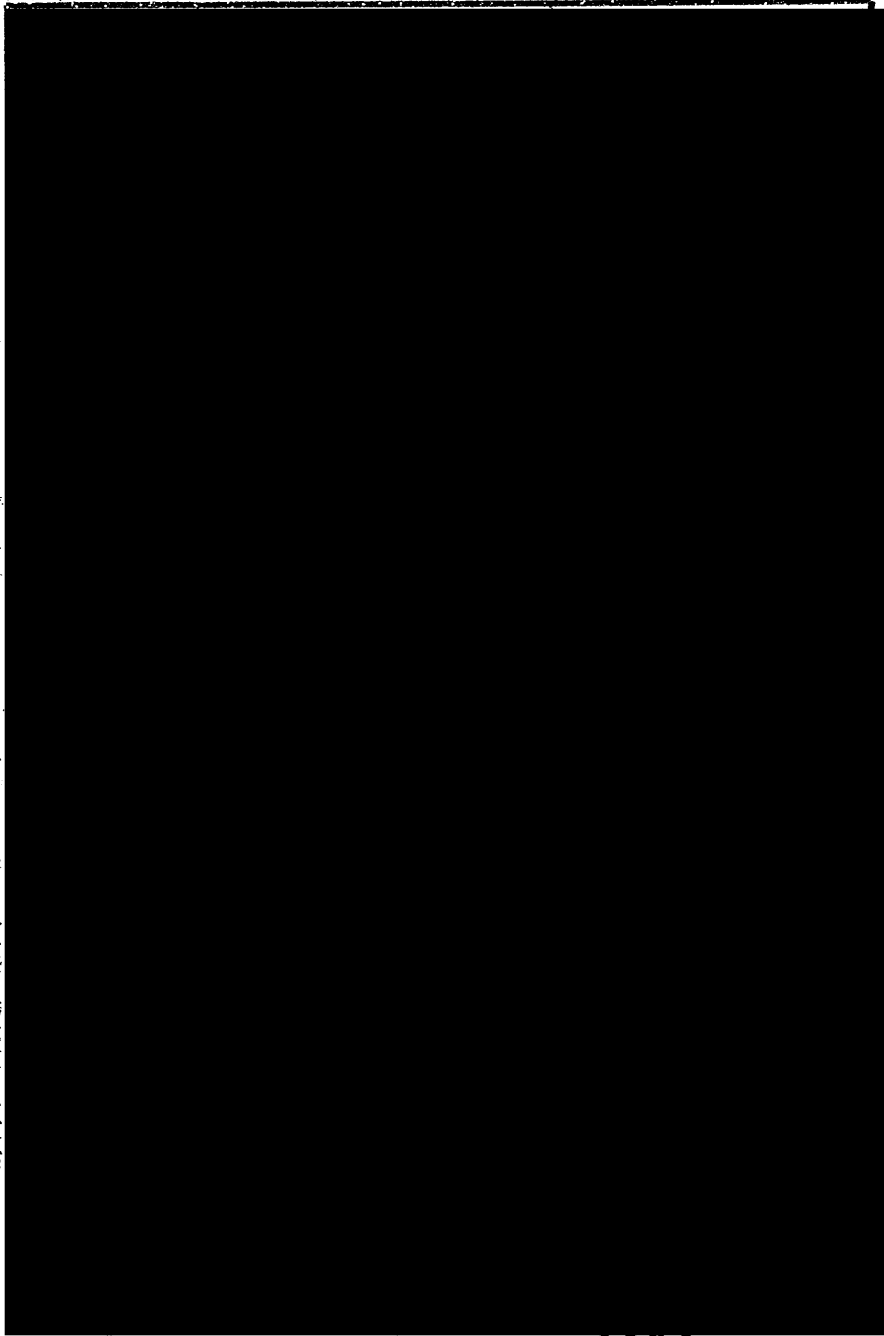
0092

秘
海
軍
公
報
號
外

二
四

0093

秘
海
軍
公
報
號
外



0094

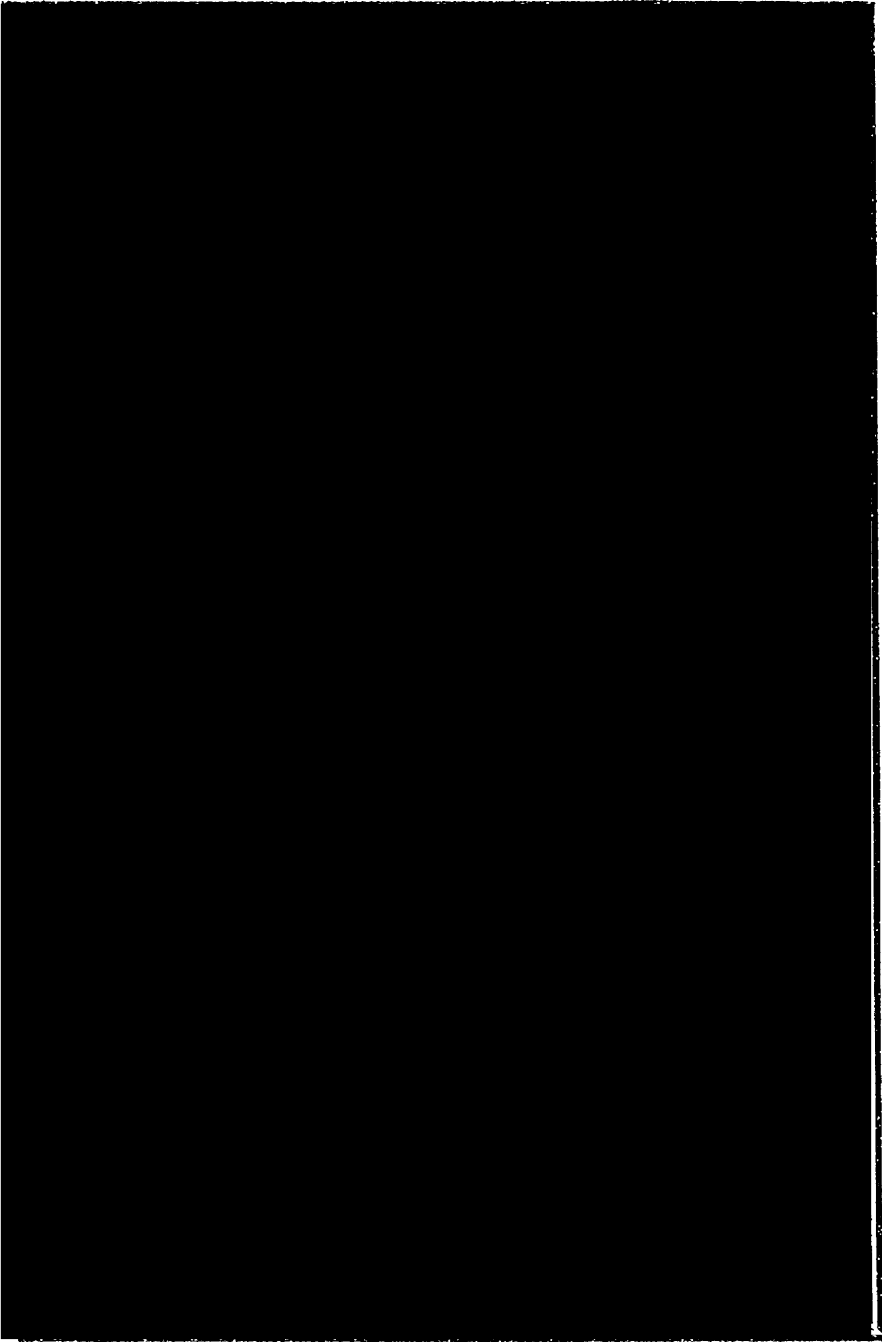
秘
海
軍
公
海
一
號
外

一
六

0095

0096

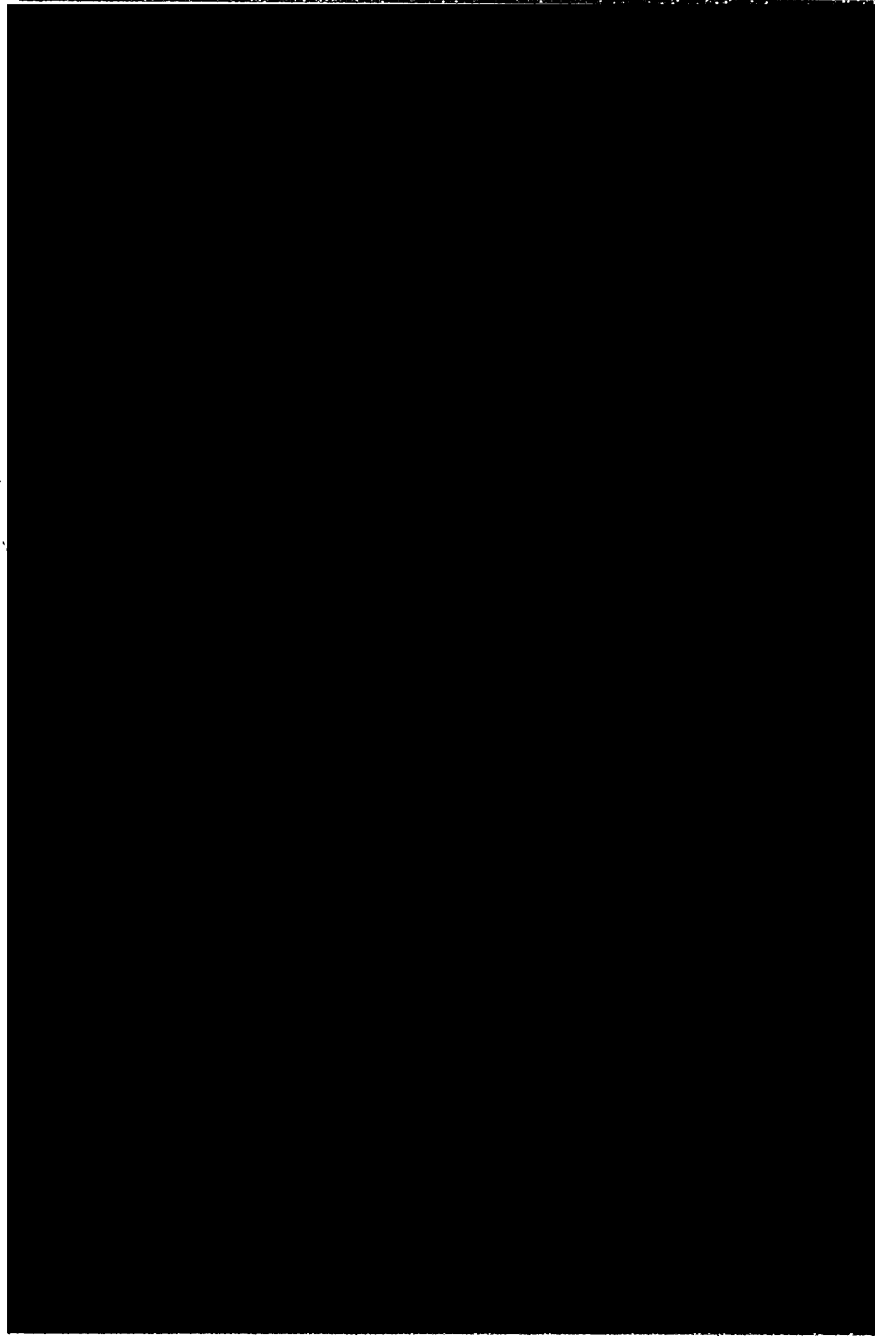
秘
海
軍
公
報
號
外



一七

0097

秘
海
軍
公
報
號
外



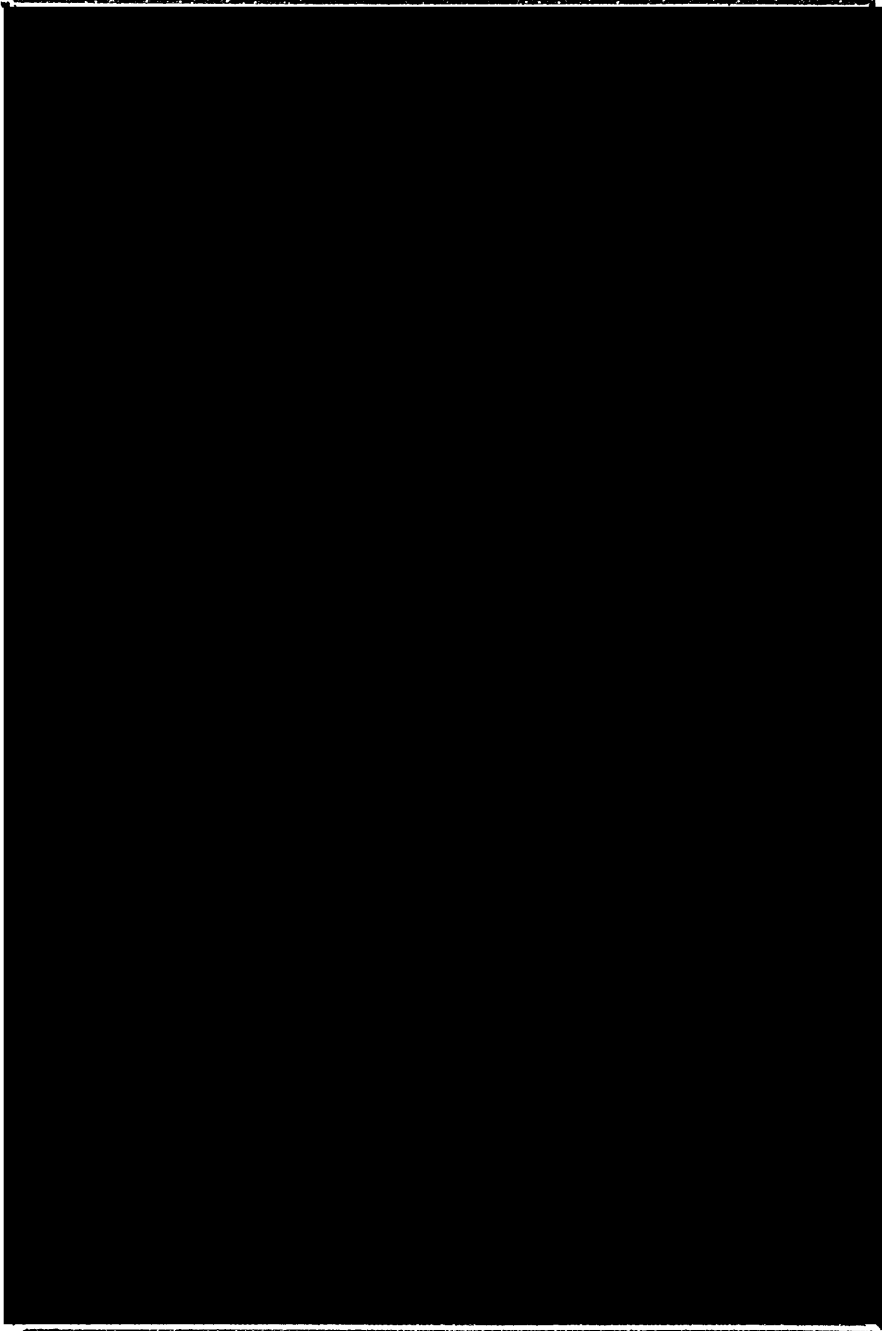
一
八

0098

秘
海
軍
公
報
號
外

九

0099



秘
海
軍
公
報
號
外

二〇

秘海軍公報
號外

0100